



## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月7日

上場会社名 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント 上場取引所 東  
コード番号 8769 URL <https://www.armg.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鳥越慎二  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理本部長 (氏名) 天田貴之 TEL 03-5794-3800  
四半期報告書提出予定日 2023年11月7日 配当支払開始予定日 -  
四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
四半期決算説明会開催の有無： 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	3,142	8.5	65	400.7	74	947.9	46	-
2023年3月期第2四半期	2,894	10.8	13	-	7	-	△16	-

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 46百万円 (一) 2023年3月期第2四半期 △16百万円 (一)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	2.77	-
2023年3月期第2四半期	△0.99	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	6,756	3,521	51.4
2023年3月期	5,960	3,639	60.2

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 3,469百万円 2023年3月期 3,588百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	0.00	-	10.00	10.00
2024年3月期	-	0.00	-	-	-
2024年3月期（予想）	-	-	-	12.00	12.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,280	13.6	850	53.6	850	59.0	560	48.3	33.56

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 有

新規 1 社 Resily株式会社

(注) 詳細は、添付資料P. 10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	17,280,200株	2023年3月期	17,280,200株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	590,851株	2023年3月期	599,851株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	16,682,513株	2023年3月期2Q	16,672,333株

(注) 期末自己株式数には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式（2024年3月期2Q 308,200株、2023年3月期 308,200株）が含まれております。また、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。（2024年3月期2Q 308,200株、2023年3月期2Q 309,331株）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものです。実際の業績は、今後の様々な要因により、予想値と異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる仮定等については、[添付資料] P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	10
(セグメント情報) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが第5類へ移行されたことに伴い経済社会活動の正常化が進展し、景気は緩やかな回復基調を維持いたしました。一方で、国際情勢不安、円安進行、物価上昇などが続いており、先行きは不透明な状況となっております。

このような経済環境の下、当社は、2021年5月に策定した「中期経営計画2023」(2021年度～2023年度)の実現に向けた取り組みを推進いたしました。「中期経営計画2023」につきましては、“ウェルビーイング領域におけるNo.1プラットフォームへ”を骨子とし、従来の事業ドメインを内包するウェルビーイング関連領域(\*)において実効性のある課題解決策をSaaSにて展開し、既存事業の深掘りとドメイン拡大を進めることにより、同領域におけるソリューション提供のリーディングカンパニーを目指すことを基本方針としております。具体的には、(1)DXプラットフォームの展開、(2)BtoBtoE領域への進出、(3)資本提携・オープンイノベーションの加速、(4)人材育成強化・健康経営推進、(5)ITケイパビリティの強化を重点テーマとして各種施策を実施し、顧客企業の生産性向上を通じた「企業価値の向上」と「従業員の元気」の実現を経営ビジョンとした事業活動を展開いたします。

当第2四半期連結累計期間におきましては、「中期経営計画2023」のコア商品である「アドバンテッジ ウェルビーイングDXP」(\*\*)を軸に顧客企業への複数サービス提供の総合提案営業を引き続き推進し、ウェルビーイング関連の事業領域の拡大に取り組みました。また、当第2四半期連結累計期間より、ストレスチェックサービスを主力事業として展開するここむ株式会社及びOKR(Objective & Key Results)という目標管理手法を活用した組織・個人のアライメント強化ツール『Resily(リシリー)』をクラウドで提供するResily株式会社を完全子会社化し、顧客基盤の拡大とエンゲージメント領域のソリューション強化など新たな事業機会を創出いたしました。

(\*) 当社事業における心身の健康、従業員の成長、リスクの予防と発生時の支援、両立支援、福利厚生、余暇支援、会社との一体感醸成等の業務領域

(\*\*) ストレスチェック義務化対応プログラム「アドバンテッジ タフネス」による調査結果や健康診断結果など心身の健康データや、勤怠・休業等の人事労務情報を集約し、ダッシュボードでの見える化、データ分析、課題抽出、効果的なソリューションの提案を行うデータマネジメントプラットフォーム

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、メンタリティマネジメント事業及び就業障がい支援事業が堅調に推移し、増収となりました。費用面につきましては、成長戦略に基づくシステム投資に伴うソフトウェア償却費など経費負担は増加いたしました。売上高が伸長したことにより増益となりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,142百万円(前年同期比8.5%増)、営業利益は65百万円(前年同期比400.7%増)、経常利益は74百万円(前年同期比947.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は46百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失16百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりです。

#### (メンタリティマネジメント事業)

当事業におきましては、ストレスチェックやエンゲージメントサーベイを起点に組織改善までを担うワンストップサービス「アドバンテッジ タフネス」の新規顧客の獲得に注力いたしました。また、人事経営課題解決型プラットフォーム「アドバンテッジ ウェルビーイングDXP」、ならびに組織改善のPDCAを加速するパルスサーベイシステム「アドバンテッジ p d C a (ピディカ)」の導入を推進いたしました。

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、採用適性検査『インサイト』・EQ(感情マネジメント力)向上研修関連の売上が軟調だったものの、「アドバンテッジ タフネス」の新規契約の獲得が好調に推移、また企業の健康経営推進ニーズにより「健診管理システム」の新規導入が順調に推移し増収となりました。費用面につきましては、「アドバンテッジ タフネス」など既存サービスの改良や中期経営計画実現に向けた「アドバンテッジ ウェルビーイングDXP」の追加開発に伴うソフトウェア償却費の増加により経費負担が増加いたしました。なお、新たに連結子会社となりましたここむ株式会社およびResily株式会社の経営成績は当セグメントに含んでおります。

これらの結果、メンタリティマネジメント事業の売上高は2,371百万円(前年同期比9.0%増)、セグメント利益は221百万円(前年同期比0.4%減)となりました。

## (就業障がい者支援事業)

当事業におきましては、引き続き、新たな連携先との関係構築及び既存連携先との関係深化によるGLTD (Group Long Term Disability: 団体長期障害所得補償保険) の新規顧客開拓に取り組みました。また、会社と傷病休のほか産休・育休・介護休業等により休業中の従業員を繋ぎ、人事部門の負担とリスクの軽減と休業者の復職や仕事の両立をサポートする休業者管理支援クラウドサービス「ADVANTAGE HARMONY (アドバンテッジハーモニー)」の営業活動を推進いたしました。

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、GLTD販売が堅調に推移いたしました。また、「ADVANTAGE HARMONY (アドバンテッジハーモニー)」の新規契約が順調に増加いたしました。費用面につきましては、システム投資によるソフトウェア償却費が増加いたしました。売上高が伸長し増益となりました。

これらの結果、就業障がい者支援事業の売上高は620百万円 (前年同期比10.3%増)、セグメント利益は67百万円 (前年同期比205.6%増) となりました。

## (リスクファイナンス事業)

主に企業等に勤務する個人を対象として保険商品を販売している当事業におきましては、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で減収となりました。費用面につきましては、効率的なオペレーション業務体制の維持によりコスト抑制に努めました。

これらの結果、リスクファイナンス事業の売上高は149百万円 (前年同期比4.3%減)、セグメント利益は111百万円 (前年同期比7.6%減) となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産・負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末より795百万円増加し、6,756百万円となりました。流動資産は447百万円増加し、3,083百万円となりました。これは主に、売掛金、保険代理店勘定が減少する一方で、当期間の経営成績の結果により現金及び預金が509百万円増加したことによるものです。固定資産は348百万円増加し、3,673百万円となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得により発生したのれんの増加及び事業用システム投資に伴う無形固定資産の取得によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の負債は前連結会計年度末より914百万円増加し、3,235百万円となりました。流動負債は729百万円増加し、2,855百万円となりました。これは主に、前受収益が増加したことによるものです。固定負債は185百万円増加し、379百万円となりました。これは主に、取得した連結子会社の長期借入金によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は前連結会計年度末より118百万円減少し、3,521百万円となりました。これは主に、配当を実施したことによるものです。

なお、保険会社に帰属する保険料で当社の口座に残高のあるものについては、保険代理店勘定及び保険料預り金として対照勘定処理を行っております。これらを除いた場合の自己資本比率は52.9%となります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物 (以下「資金」という) は前連結会計年度末より506百万円増加し、1,766百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりです。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は1,262百万円 (前年同期比38.7%増) となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益76百万円、前受収益の増加額が779百万円、減価償却費が308百万円となったことによるものです。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は579百万円 (前年同期比8.1%増) となりました。これは主に、無形固定資産の取得に伴う支出が507百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が96百万円になったことによるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は177百万円 (前年同期比4.5%増) となりました。これは、配当金の支払が169百万円生じたことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月12日の「2023年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました通期の業績予想から変更はありません。

なお、1株当たり当期純利益につきましては、本資料発表日現在予測可能な株式数の増減を反映させた期中平均株式数を元に算出しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,266,951	1,776,114
売掛金	995,682	865,908
保険代理店勘定	227,089	194,636
その他	146,298	246,713
流動資産合計	2,636,021	3,083,372
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	321,697	322,593
減価償却累計額	△181,904	△191,338
建物附属設備(純額)	139,793	131,255
工具、器具及び備品	178,531	184,253
減価償却累計額	△152,276	△160,531
工具、器具及び備品(純額)	26,254	23,721
リース資産	3,330	3,330
減価償却累計額	△110	△443
リース資産(純額)	3,219	2,886
有形固定資産合計	169,267	157,863
無形固定資産		
のれん	—	282,625
ソフトウェア	1,747,659	2,040,727
ソフトウェア仮勘定	510,102	283,402
その他	13,802	13,714
無形固定資産合計	2,271,565	2,620,469
投資その他の資産		
投資有価証券	560,386	557,579
敷金及び保証金	177,394	177,743
繰延税金資産	136,036	147,180
その他	10,210	12,374
投資その他の資産合計	884,027	894,878
固定資産合計	3,324,860	3,673,211
資産合計	5,960,881	6,756,583

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	170,000	170,000
1年内返済予定の長期借入金	—	8,456
未払金	471,396	398,205
未払法人税等	118,277	64,737
前受収益	719,964	1,530,285
保険料預り金	227,089	194,636
リース債務	793	732
賞与引当金	189,726	221,263
役員賞与引当金	8,758	9,767
その他	220,723	257,713
流動負債合計	2,126,729	2,855,798
固定負債		
長期借入金	—	164,626
株式給付引当金	113,775	134,586
リース債務	2,869	2,503
資産除去債務	77,836	77,946
固定負債合計	194,481	379,661
負債合計	2,321,210	3,235,459
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	365,964	365,964
資本剰余金	317,554	317,554
利益剰余金	3,508,685	3,380,678
自己株式	△603,663	△594,203
株主資本合計	3,588,540	3,469,993
新株予約権	51,130	51,130
純資産合計	3,639,671	3,521,123
負債純資産合計	5,960,881	6,756,583

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	2,894,840	3,142,091
売上原価	833,564	980,142
売上総利益	2,061,275	2,161,948
販売費及び一般管理費	2,048,201	2,096,483
営業利益	13,074	65,465
営業外収益		
受取配当金	6,646	8,407
未払配当金除斥益	254	388
助成金収入	—	1,092
その他	53	164
営業外収益合計	6,953	10,052
営業外費用		
支払利息	477	783
持分法による投資損失	12,376	—
その他	42	3
営業外費用合計	12,896	786
経常利益	7,131	74,731
特別利益		
投資有価証券売却益	—	2,143
特別利益合計	—	2,143
特別損失		
固定資産除却損	0	—
投資有価証券評価損	3,802	—
特別損失合計	3,802	—
税金等調整前四半期純利益	3,329	76,875
法人税、住民税及び事業税	29,847	41,838
法人税等調整額	△9,999	△11,144
法人税等合計	19,848	30,694
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△16,519	46,180
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△16,519	46,180

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△16,519	46,180
四半期包括利益	△16,519	46,180
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△16,519	46,180
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,329	76,875
減価償却費	224,757	308,593
のれん償却額	27,303	4,273
受取利息及び受取配当金	△6,647	△8,409
支払利息	477	783
助成金収入	—	△1,092
持分法による投資損益 (△は益)	12,376	—
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△2,143
投資有価証券評価損益 (△は益)	3,802	—
固定資産除却損	0	—
賞与引当金の増減額 (△は減少)	21,458	31,536
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	9,631	1,009
株式給付引当金の増減額 (△は減少)	16,161	20,811
売上債権の増減額 (△は増加)	114,153	137,290
前受収益の増減額 (△は減少)	650,412	779,638
その他の資産の増減額 (△は増加)	△80,285	△89,377
その他の負債の増減額 (△は減少)	△42,814	99,538
小計	954,116	1,359,327
利息及び配当金の受取額	6,647	8,409
利息の支払額	△477	△783
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△49,974	△105,258
助成金の受取額	—	1,092
営業活動によるキャッシュ・フロー	910,311	1,262,787
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	—	20,000
有形固定資産の取得による支出	△1,121	△316
無形固定資産の取得による支出	△536,490	△507,620
敷金及び保証金の差入による支出	—	△99
敷金及び保証金の回収による収入	1,641	155
投資有価証券の売却による収入	—	4,950
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△96,519
投資活動によるキャッシュ・フロー	△535,970	△579,450
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	—	△7,322
リース債務の返済による支出	—	△427
配当金の支払額	△169,622	△169,478
財務活動によるキャッシュ・フロー	△169,622	△177,228
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	204,719	506,109
現金及び現金同等物の期首残高	717,933	1,260,527
現金及び現金同等物の四半期末残高	922,653	1,766,636

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第2四半期連結会計期間において、Resily株式会社の全株式を取得したことにより、連結子会社としております。

## (セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	メンタリティ マネジメント事業	就業障がい者 支援事業	リスクファイナン シング事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	2,175,629	562,572	156,638	2,894,840
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	2,175,629	562,572	156,638	2,894,840
セグメント利益	222,717	21,974	120,443	365,135

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	365,135
全社費用(注)	△352,061
四半期連結損益計算書の営業利益	13,074

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等の販売費及び一般管理費であります。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	メンタリティ マネジメント事業	就業障がい者 支援事業	リスクファイナン シング事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	2,371,342	620,771	149,977	3,142,091
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	2,371,342	620,771	149,977	3,142,091
セグメント利益	221,922	67,146	111,243	400,312

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	400,312
全社費用(注)	△334,847
四半期連結損益計算書の営業利益	65,465

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等の販売費及び一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「メンタリティマネジメント事業」セグメントにおいて、ここむ株式会社及びResily株式会社の全株式を取得したことにより、のれんが286,899千円発生しております。なお、のれんの金額は、当第2四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。